

ふくしま学力調査

学力の伸びを引き出した学校の取組事例集

第4号

子ども一人一人が
自分がどれだけ伸びたかを実感することで、
自信をもち、意欲を高め、
さらに学力を伸ばすために
「ふくしま学力調査」を実施します



ふくしま応援！
「ペコ太郎」

令和7年2月
福島県教育委員会



目次

○ 「学力の伸びを引き出した学校の取組事例」について	1、2
○ 取組事例	3～24
・ 「自己効力感」に目を向けた学校全体の取組	3
田村市立常葉小学校	4
いわき市立錦小学校	5
郡山市立西田学園義務教育学校	6
・ 「学級風土」に目を向けた学校全体の取組	7
白河市立釜子小学校	8
南会津町立荒海小学校	9
只見町立只見中学校	10
川内村立川内小中学園	11
・ 「規範意識」に目を向けた学校全体の取組	12
会津美里町立新鶴小学校	13
いわき市立小名浜第二中学校	14
・ 「主体的・対話的で深い学び」に目を向けた学校全体の取組	15
福島市立三河台小学校	16
相馬市立中村第一小学校	17
伊達市立月館学園中学校	18
塙町立塙中学校	19
喜多方市立塩川中学校	20
・ 「ふくしま教育創造コンソーシアム」実践発表校	21
郡山市立芳山小学校	22
白河市立関辺小学校	23
二本松市立岩代中学校	24

学力の伸びを引き出した学校の取組事例

1 趣旨

ふくしま学力調査において、学力の伸びを引き出した学校の効果的な取組事例をまとめ、県内の小・中・義務教育学校及び特別支援学校と共有することにより、どの学校においても児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 掲載校について

今年度、ふくしま学力調査を実施した小学校4学年から中学校2学年のうち、小学校5、6学年及び中学校2学年のいずれかの学年で学力の伸びが見られた学校を選出した。そのうち、すべての児童生徒の学力向上に向けて、管理職のリーダーシップの下、学校全体で取り組んでいる実践がある学校（7つの域内から小、中各1校ずつ）を選び、掲載している。

さらに、今年度の「ふくしま教育創造コンソーシアム」において、学力向上に向けた取組を発表した小・中学校3校についても掲載している。

3 学校規模について

【小学校】

大規模校・・・19学級以上
中規模校・・・12学級～18学級
小規模校・・・11学級以下

【中学校】

大規模校・・・10学級以上
中規模校・・・6学級～9学級
小規模校・・・5学級以下

4 第4号の内容について

第4号では、小学校6年生と中学校2年生（義務教育学校8年生）の学力の伸びに着目し、管理職のリーダーシップの下、学校全体で学力向上に取り組んでいる学校の取組事例について紹介する。

第3号までの国語科及び算数・数学科等の教科における取組に加え、学力と相関関係があると考えられる「自己効力感」、また「自己効力感」と相関関係があると考えられる「規範意識」「学級風土」「主体的・対話的で深い学び」の4つの視点についても聞き取りを行い、効果が見られたと考えられる取組をまとめている。

(1) 「4つの視点」に目を向けた学校全体の取組について

ふくしま学力調査分析協力者の宮城教育大学教職大学院教授田端健人氏の御助言の下、非認知能力を踏まえた学力の伸びに注目していく。

「令和6年度ふくしま学力調査報告書 特別寄稿」より（一部抜粋）

1 学力と非認知能力の相関の有無

- ・ ふくしま学力調査では、非認知能力に関して、5種類を質問しています。「自制心」「自己効力感」「勤勉性」「やりぬく力」「向社会性」です。
- ・ 気になるのは、これら非認知能力が、国語や算数・数学の学力値と相関関係にあるか否かです。令和5年度のふくしま学力調査結果から、「自己効力感」だけ、学力と相関があり、他の非認知能力は相関なしでした。
- ・ 学力と自己効力感との相関は、国語よりも算数・数学の方が高く、学年が上がるにつれ、算数・数学との相関係数が大きくなっていることもわかります。

2 「勉学での自己効力感」

- ・ ふくしま学力調査の「自己効力感」は、勉学に焦点化した自己効力感ですから、「勉学での自己効力感」と受け止めるのがよいでしょう。
- ・ 「勉学での自己効力感」スコアは学力値と一定の相関があり、その他の一般的な非認知能力スコアは、学力値とは独立的である、とご理解ください。
- ・ 相関関係がなくても、それぞれの非認知能力が一定程度高いことは望ましいことです。

3 「主体的・対話的で深い学び」と「学級風土」の重要性

- ・ ふくしま学力調査結果からは、「主体的・対話的で深い学び」と「学級風土」の合成変数をつくることもできます。これら2つの合成変数は、5つの非認知能力と相関することがわかりました。
- ・ 「数学での主体的・対話的で深い学び」は、「勉学での自己効力感」「規範意識」「学級風土」と中程度の相関（いずれも $r=0.52$ ）があり、「自制心」と弱い相関($r=0.29$)がありました。
- ・ 数学の授業で主体的・対話的で深い学びをしている生徒ほど、「勉学での自己効力感」や「規範意識」が高い傾向にあり、「学級風土」もよいと感じる傾向にあります。
- ・ 「学級風土」は、「規範意識」と中程度($r=0.43$)、「勉学での自己効力感」や「自制心」と弱い相関がありました。（順に $r=0.33$ と 0.27 ）
- ・ 「主体的・対話的で深い学びに積極的に取り組み、お互いを認め合う学級風土をつくりあげることで、児童生徒の非認知能力が高まる」という仮説を支持するエビデンス（証拠）です。どうすれば非認知能力を伸ばすことができるか、を考え実践するためのヒントにもなります。

(2) 内容の詳細について

各学校の取組事例については、以下のような内容となっている。

郡山市立芳山小学校(中規模校)
子どもを「みる」子どもの声を「聴く」
誰一人取り残さない学校づくり

学校名(学校規模)
取組の主な内容

1 「学級風土」に目を向けた学校全体の取組

～全教職員で全校生を見守る～

<p>(1) 子どもの可能性を信じる</p> <p>子ども一人一人のよさや可能性を見つけ、学校全体で共有する。</p>	<p>(2) 子どもの思いに寄り添う</p> <p>楽しさ、嬉しさ、困り感、不安…子ども一人一人の姿から思いを感じ、寄り添う。</p>	<p>(3) すべての子どもを大切に</p> <p>一人一人のよさを生かし、どの子どもにも活躍の場をつくる。</p>
---	---	--

2 取組を生かした授業の実例

第2学年 算数科

(2) 子どもの思いに寄り添う

子どもの表情やしぐさを丁寧にみることで、一人一人の思いを感じ取り、全体で共有する。

「さんかくやしかくの形をしらべよう」

「Sさん、目が困っていることがありそうだね、お話をしようよ。」

私たちの思いに寄り添う

あのは、四角のうしろをみるけどはつきり分らないの。

受けて自分の思いを伝える

困り感の共有

「できた!」「分かった!」「どうして?」「よく分からない…」など、どの子どもも安心して自分の思いを話すことができる学級づくりをしている。先生が、どの子どもの思いも同じように大事に受け止めることで、子どもたちもお互いの思いを大切に。授業では、特に「困っていること」や「分からないこと」を大切にしている。

第6学年 算数科

(3) すべての子どもを大切に

子ども一人一人のよさや得意なことを生かし、どの子どもにも、授業の中で活躍できる場面をつくる。

「円の面積の求め方を考えよう」

「Kさん、実際に測ってみて、さっきと、みんなの大ききの面積がはつきりするよ。」

友だちの言葉を丁寧に受け止める

「この場面では、必ずKさんを活躍させる!」先生は、子ども一人一人の顔を思い浮かべながら授業を構想している。一人の子どもを大切に先生が、子ども一人一人の自信や「私も同じように大切にされている」という学級全体の安心感につながっていく。どの子どもも、授業をとて楽しんでる。

個に応じた活躍の場

3 校長先生から

先日、学習発表会をご覧になった支援学級の児童の保護者からお手紙をいただきました。「自分の子どもが、あんなにたくさんの先生方に声をかけていただいて、周りの友だちが当たり前のようと一緒に活動してくれて、本当に嬉しかったです。」すべての子どもを同じように大切に、誰一人取り残さない、この子どもたちや先生方の姿こそが芳山小学校です。

4つの視点（自己効力感、規範意識、学級風土、主体的・対話的で深い学び）の中で、特に意識して取り組んでいることを紹介しています。

ここに記載していることは、すべての学年・学級で大切に取り組んでいる内容です。そのため、学年や担任の先生が変わっても、6年間または3年間継続した指導が行われます。

学校全体の取組が、実際の授業で生かされている具体的な場面を紹介しています。

先生の発問や子ども一人一人への言葉かけなど、先生の働きかけに込められた思いや意図が記されています。

校長先生からお聞きしたお話を、そのまま紹介しています。

すべての児童生徒に対する校長先生の思いや、学校全体で学力向上に取り組むことの大切さが記されています。

「自己効力感」に目を向けた 学校全体の取組

田村市立常葉小学校

いわき市立錦小学校

郡山市立西田学園義務教育学校

田村市立常葉小学校(中規模校) 担任を一人にしない、「チーム常葉」で取り組む 学級経営・授業づくり

1 「自己効力感」に目を向けた学校全体の取組

子どもたちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを高めることが必要

(1) 子どもが前のめりになる授業の充実

- ・ 全校体制での算数科の授業づくり
- ・ 全学級公開に向け、「チーム常葉」で取り組む授業研究会と研修主任の「振り返り研修便り」による指導力向上

(2) hyper-QUの分析と学級経営の改善

- ・ 公認心理師による全学級のQ-Uテストの結果分析と改善に向けた具体的なアドバイス
- ・ すべての学級の状況を全教職員で共有し、担任を一人にしない、チームとして取り組む学級経営

(3) 考え、議論する道徳の充実

- ・ チームで取り組む継続した授業研究会による、教師同士の対話的な学び
- ・ 教師の姿をモデルとした子どもの学ぶ意欲の向上

2 取組を生かした授業の実際

(1) 子どもが前のめりになる授業の充実 ～全校体制での算数科の授業づくり～

【子ども同士の関わりを大切にしたい聞き手の育成】

すべての学級において、子どもを学力の上位、中位、下位として見るのではなく、どの子どもも平等な存在としての居場所づくりを心がけている。

誰にでも質問できる、相手が何に困っているのかを考える、質問した子どもが分かるように答えることを大切にしている。まずは、「子ども同士で聞く」ことをスタートにしている。



<第6学年算数科>

【教えるのではなく、子どもと一緒に考える姿勢の継続】

1年生から、子どもが自分で問題を解決する過程を大切にしている。教師の役目は種をまくことであり、子どもが自分から学び始め、学びを進め、学びを自覚できる姿を大切にしている。

そのため、子どもから自然と「問い」が生まれるような問題場面や、子どもが自分自身の変容を自覚できるような振り返りを工夫するようにしている。



<第1学年算数科>

【「既習事項を使えばできるんだ」という意識の向上】

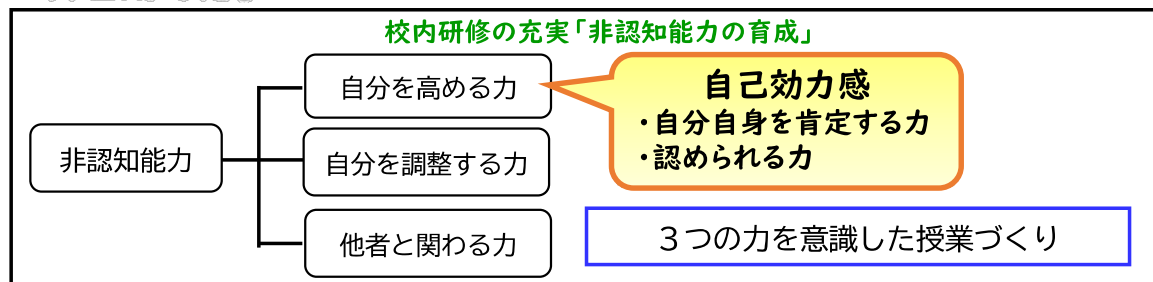
いい意味で「何とかなるだろう」と思える子どもが増えている。授業において「友達に聞いたらできた」ことや「教科書をよく読んでみたら分かった」こと、「ICT機器で調べたら解決できた」ことなど、やってみたらできた経験を大切にしている。授業での成功体験が増えたことで、自主学習においても諦めずに一生懸命に復習をする子どもが増えている。

3 校長先生から

包括的な研究的問い「学校を取り巻く子ども・保護者・教師等をどのようにして幸福にすればよいのか」を立て、新たな学校経営モデルの構築を目指した実践研究の2年目が過ぎ、「やればできる、仲間と一緒に学ぶと楽しい」等、子どもの「学びに向かう力」が少しずつ育っていることをうれしく思います。

いわき市立錦小学校(中規模校) 非認知能力を育てるための 学級づくりや授業づくり

1 「自己効力感」に目を向けた学校全体の取組



2 取組を生かした授業の実例


「他者と関わる力」を育む

心理的安全性の確保

国語科「方言と共通語」

方言と共通語の違いを理解することがねらいである。児童たちは、方言と共通語の違いを踏まえて、どんな時に方言や共通語を使うとよいか考えた。グループ交流では、自分の意見を友達に伝えた。グループの誰もがその話に真剣に耳を傾けることができた。

このように、児童同士のよい関係性と、心理的安全性を確保することにより、どの児童も自信をもって自分の考えを述べられるようにしている。




「自分を高める力」を育む

課題解決に向かう力の育成

算数科「小数のかけ算」

既習問題を解かせてから本時の問題を提示した。新たな問題に出合った児童に、教師は「昨日までの学習との違いに気付くかな。」と語りかけ授業を進めた。そして、その違いを明らかにし、授業のめあてにつなげていった。

このように、授業の導入で課題を明確にするとともに、児童に学習の意欲付けを図った。課題の解決に向かう力は、「自分なら解ける、自分ならできる」と自分を肯定する力である。教師は、このような力を見取り、寄り添いながら児童の活動を支援している。



3 校長先生から

本校では、学力の基盤は「非認知能力」にあるとして、その育成に全校を上げて取り組んでいます。ふくしま学力調査の質問紙をはじめ各調査からは、非認知能力の高まり、特に自己効力感の高まりが認知の高まりと相関関係があることが分かりました。実際に、非認知能力の高い学級では、主体的に学習に取り組む児童が多く、児童同士の関係性もよかったです。

校内研修の授業研究は、1人1授業として行っています。各教科のねらいの達成とともに「非認知能力の育成」を視点を、毎回先生方の協議が行われ、それが授業改善につながっています。さらに、算数科においては、学力向上支援アドバイザーが定期的に来校し、授業参観を通して授業改善の助言をしてくださる機会があります。それが非常に教師自身のレベルアップにつながっています。児童の学力向上には、教師一人一人の授業力向上も大事な要素であると考えています。今後も、児童一人一人に確実な学力を身につけるために学校全体で取り組んでいきたいです。

郡山市立西田学園義務教育学校(小規模校) 自己効力感の重要性を共有し、 生徒一人一人が達成感を得られる授業づくり

1 「自己効力感」に目を向けた学校全体の取組

(1) 授業と家庭学習の連動

授業を、課題を解決したり自分の考えを広げ深めたりする協働的な学びの場、家庭学習を、知識・技能を習得したり活用したりする個別最適な学びの場の一端と捉え、それらを連動させた学びを推進している。

(2) 個別最適な学びの連続性

5年生から教科担任制を導入し、専門的な学びや個別最適な学びの連続性を大切にしている。生徒一人一人が自己効力感を高めることの重要性を学校全体で共有し、その実現を目指している。生徒自身が自己の能力を向上させる目標を掲げ、その達成に向かって取り組むことで、学習の質の高まり、生徒の意思決定力の向上につなげている。

(3) 学習に関する心構えの指導と振り返り

7年生進級時に学習に関する心構えについて伝え、全ての教科で徹底することを学校全体で共有している。早い段階で自らの学力の伸びとの関連を実感させ、学習に関する心構えの習慣化を図っている。また、学習規律や生徒の規範意識について定期的に振り返る機会を設けることで、生徒自身がそれぞれの成長を実感し、達成感や成功体験を得られるようにしている。

2 取組を生かした授業の実際

(3) 学習に関する心構えの指導と振り返り

【自分に合った学習方法や学習形態の選択】

それぞれの生徒に自分に合った学習方法や学習形態を選択させている。その上で、学習に関する心構えをもとに、自己の学びを振り返る機会を設け、課題追究とその結果を往還させることで、自ら学んでいるという実感を生徒自身がもてるようにしている。

【数学科における難易度別学習と評価】

基礎→A問題→B問題と、難易度を段階的に上げて学習に取り組むとともに、各段階での評価を生徒に伝えている。そうすることで、生徒が自分の学力を客観視できるようになり、適切な目標を立てて努力することができるようになってきている。



<授業風景>



<取り組む問題の難易度の可視化>

【デジタルドリル等の活用による学力に応じた学習の充実】

補充学習や家庭学習において、デジタルドリル等を活用し、それぞれの生徒がそれぞれの学力や進度に応じた課題に取り組むことで、自分のペースで学習できるようにしている。また、取組の結果や学習時間等を可視化し、各自の学びを振り返ることができるようにしている。

3 校長先生から

本校では、自己肯定感・自己効力感の重要性を共有し、義務教育学校のメリットを活かしながら、児童生徒一人一人が達成感・成功体験を得られるような取組を意識して、授業や縦割り行事等を実施しています。

「学級風土」に目を向けた 学校全体の取組

白河市立釜子小学校
南会津町立荒海小学校
只見町立只見中学校
川内村立川内小中学園

白河市立釜子小学校(小規模校) 児童を「ほめて、認めて、価値付ける」 教職員集団を基にした学級・授業づくり

1 「学級風土」に目を向けた学校全体の取組

(1) 指導体制の工夫

- ・ 国語科、算数科におけるTT指導。担任と担任外の教員の組み合わせによる協働的な授業の実施。
- ・ 複数の教員で児童を見取ることにより、児童にとって安心して学べる場としての学級づくり。

(2) 安心・安全な学級風土づくり

- ・ 生徒指導アンケートの内容を、管理職も含め、全教職員で確認。必要に応じて、即時に組織的な対応。
- ・ 担任とSCが共にQ-Uテストの結果を分析。気になる児童への関わり方について、SCから担任へアドバイス。

2 取組を生かした授業の実際

(1) 指導体制の工夫

【複数の教員で 「ほめて、認めて、価値付ける」】

学校生活の様々な場面において、全教職員が児童を「ほめて、認めて、価値付ける」指導を共通実践している。複数の教員が児童に関わり、児童のよい面を共有し、教職員が積極的に「ほめて、認めて、価値付ける」ことで、児童一人一人の意欲を高めることにつながっている。

【担任による丁寧なコメント】

どの授業においても、終末に振り返りを書く時間を必ず確保し、習慣化を図っている。担任が、児童の振り返りに対して丁寧なコメントを返すことで、次の学習に対する意欲を高めている。

(2) 安心・安全な学級風土づくり

【安心して授業に参加できる環境づくり】

学習用具の準備、聞く姿勢、発表の仕方などの学習規律に関する指導を充実させている。友達の考えを聞く態度を身に付けることを重視し、話す児童が「友達に聞いてもらえるから、安心して発言できる」という学級風土づくりに力を入れている。

特に、Q-Uテストの結果が気になる児童については、達成感や自己肯定感が得られるような場面を、意図的に設けるようにしている。



3 校長先生から

本校では、教職員集団の組織を生かした教育活動の展開を意識的に行っています。児童が安心して授業に参加できるようにチーム・ティーチングなどの指導体制を工夫したり、「授業スタンダード」を自校化して共通実践をしたりしています。これからも、毎日の授業を大切に、子どもをほめて育てる教職員風土を大切にしていきます。

南会津町立荒海小学校（小規模校） 全職員で全校生を見取り 共有した情報を基にした組織的な授業づくり

1 「学級風土」に目を向けた学校全体の取組

（1）実態把握と情報共有

- ・ 全職員で全校生を見取り、児童のよさや気になる様子を日頃から職員室で共有。
- ・ 学力向上支援アドバイザーによる児童のつまずきの明確化や各種調査の分析による個に応じた指導の質の高まり。

（2）多面的な実態把握に基づいた授業づくり

- ・ 全職員や学力向上支援アドバイザーにより共有した情報を基に「クラス全員が落ち着いて学べる授業づくり」の積み重ねによる、児童一人一人の確実な資質・能力の育成。

2 取組を生かした授業の実際

（2）多面的な実態把握に基づいた授業づくり

【全員に見通しをもたせるためのはたらきかけ】

- ・ 共有した情報を基に、児童一人一人の実態に根差した授業づくりを進めている。学力差の大きい学級では、教科書に示されている単元のガイダンス等を基に学習内容を確認するなどの手立てによって、一人一人に応じた具体的な学習の見通しをもてるようにしている。
- ・ これまでの学びの足跡や児童の発言を基に学習課題を設定することによって、単元を通して児童の思いや願いに根差した授業づくりを行っている。

【つぶやきやすい雰囲気づくり】

- ・ 「対話の充実には親和的な関係性が不可欠」という共通認識の下で、先生方は温かい学級づくりに努めている。児童一人一人の興味・関心に応じて、授業の中にクイズ形式の展開を取り入れるなど、笑顔でやりとりを楽しみながら学ぶための工夫が随所にみられている。



3 校長先生から

荒海小学校では、毎日の授業の中でも、教育目標である「元気いっぱい、笑顔いっぱい！荒海小」の実現を目指しています。先生方は、その実現に向けて、その日の子どもたちの姿や授業での悩みを日常的に話し合い、お互いにアドバイスし合いながら組織的に授業づくりをしています。先生方が話し合う姿からは、「まわりの先生方から吸収しよう」という意欲や敬意が感じられ、校内の授業研究会等でも活発に質問や意見が交わされます。親和的な学級づくりを目指し、同僚から学ぼうとする先生方の謙虚な姿勢がよりよい授業実践につながっているものと考えています。

只見町立只見中学校(小規模校) 基礎・基本を重視した 安心して学びに向かうことのできる授業づくり

1 「学級風土」に目を向けた学校全体の取組

(1) 安心して過ごせる環境づくり

- ・ 「1日の生活プログラム」を示すなど、生活規律や学習規律を整え、規範意識を高めることによって生徒が安心して過ごせる環境をつくり、生徒全員の学びに向かう力を引き出す。

(2) 生徒間の対話の重視

- ・ 体育祭や文化祭などの学校行事を生徒主体で企画・運営させ、生徒間の対話を活性化することによって、連帯感や所属感の醸成に努める。

2 取組を生かした授業の実際

(1) 安心して過ごせる環境づくり

【安心して学べる授業展開】

- ・ 「導入」「課題解決」「共有」の場面で生徒が安心して学びに向かうことができるような手立てを講じることにより、より確実に学習規律を身に付け、規範意識を高めることができるようにしている。

《導入の場面》

誰もが答えやすい問いかけからスタートするなど、全員が思いを口にできるような場面を意図的に設定している。

《課題解決の場面》

一人一人の状況に応じて個別に指導を行い、全員が解決できたことを確認したうえで次の展開に進むようにしている。

《それぞれの考えを共有する場面》

うまく説明できない生徒がいた場合には、「〇〇さんの考えの続きを説明できる人はいるかな？」と全体に声をかけ、全員で補い合い、つまずきや誤答を生かした授業を展開することで、誰もが安心して発言できる雰囲気づくりをしている。



【「学力向上プラン」の活用】

生徒が安心して学びに向かうことができるようにするために、各種調査等から生徒の実態を確実に捉え、学年別に教科ごとの学習指導の具体的方策を打ち出した「学力向上プラン」を作成している。「学力向上プラン」に示されている課題設定や学習形態の具体例を参考に授業を構想することによって、生徒一人一人に寄り添った「分かる」「できる」授業を積み重ねている。

3 校長先生から

本校に入学する生徒の多くは、家庭教育と小学校での指導の充実によって自己肯定感が高まっており、落ち着いて学びに向かうことができている。先生方は、小学校からの引継事項や他の教職員からの情報によって一人一人を多面的に捉え、日々の生徒との関わりを大切にしています。授業については、「基礎・基本」を重視し、既習事項の振り返りを丁寧に行ったり、スモールステップの展開を心がけたりするなど、肯定的な声かけができる学習場面をつくらうとする工夫が随所に見られます。また、生徒が安心感を得る要因の一つに、「不易」を大切にしたい一貫性のある授業づくりがあると、本校では考えています。

川内村立川内小中学園(小規模校) 自他の大切さを認め合いながら 主体的・対話的に学習に取り組む授業づくり

1 「学級風土」に目を向けた学校全体の取組

自他の大切さを認め合い、学び合う子どもの育成

人権教育において「自他の素晴らしさを互いに高め合う人間関係の育成」を重点目標とし、日々の教育活動に取り組んでいる。全教員が共通して、生徒が一人の人間として大切にされているという実感がもてる指導や話し合い活動の充実を視点に授業づくりをすることにより、生徒一人一人の思いを大切にし、互いを高め合う人間関係の育成を図っている。また、学校掲示で「うれしかったこと」や「まねしてみたいこと」等のエピソードをその都度紹介し、自他のよさに気づき、互いに認め合うことができる環境づくりにも力を入れている。



学校掲示『Happy sea』
「うれしかったこと(鮎)と」
「まねしてみたい(鯛)こと」
「あたたかい(貝)言葉」を掲示している

2 取組を生かした授業の実際

【互いの考えを認め合いながら学ぶ姿】



うんうん、なるほど。

確かに、それもいいね。

〇〇さんの言いたいことは、つまり…

生徒一人一人の思いを大切にした授業づくりや学校掲示などの全校での継続した取組により、生徒たちは互いの考えを認め合いながら学習に取り組むことができている。

授業では、さまざまな場面で話し合いの場を設定している。生徒たちが自分の意見を持ち、主体的に話し合い活動に臨むことができるように、話し合いの視点を明確にし、全員で共有している。そして、自分の考えを友達に伝えようとする、友達の意見に耳を傾けることを大切に、自他の思いや考えを互いに認め合う学級風土につなげている。

このような学級風土が、「自分の考えを友達に伝えよう」「友達の考えを聞きたい」といった、主体的・対話的に学習に取り組む姿として表れ、一人一人の学びの高まりや深まりにつながっている。

3 校長先生から

少人数、極少人数学級である本校においては、日常的に個別最適化された学び、協働的な学びが実践されています。そこには、自他のよさを認め合える学級づくりが根底にあります。9年間を一貫した教育方針のもと教育活動を実践している義務教育学校ならではのよさが表れていると感じています。

「規範意識」に目を向けた 学校全体の取組

会津美里町立新鶴小学校
いわき市立小名浜第二中学校

会津美里町立新鶴小学校(小規模校) どの子どもも同じように大切にされる 学級づくり・授業づくり

1 「規範意識」に目を向けた学校全体の取組

(1) 時間を意識させる指導

- ・ 放送委員会による予鈴の放送を廃止。
- ・ 自分たちで時計を見て、考えて行動できるよう、お互いに意識し合える集団づくり。

(2) みさと運動の励行

- ・ 礼儀や整理整頓などの基本的な生活習慣を確立させ、集団生活への意識を高める。
- ・ あいさつ、返事、履き物そろえの励行、全員で実践。

(3) 誰一人取り残さない指導の充実

- ・ 「必ず全員で」「必ずやり遂げる」の2つについての合意形成による学級の団結力の高まり。

2 取組を生かした授業の実践

(3) 誰一人取り残さない指導の充実



【所属意識と向上心の高まり】

- ・ 生活や学習において、全員で目標達成を目指し最後まであきらめずに取り組ませる指導を継続することで、すべての児童が所属意識と向上心をもった学級集団をつくる。

【自治意識の高まり】

- ・ 話し合い活動では、最初は原稿に沿った訓練を徹底し、全員が同じ水準で話し合いが進められるようにする。それを別の場面で使用することができたら称賛し、教師が価値付けすることで主体性を育み、児童一人一人の自治意識を高めている。



【論理的思考力の高まり】

- ・ 算数ジュニアオリンピックの過去問や県立中学校の入試問題など、発展的な課題に取り組む時間を設定し、グループによる学び合いで解決することで論理的思考力を高めている。



【全員が「分かる・できる授業」】

- ・ どの授業においても、教師のコーディネートにより友達の考えを再生させることで、全員が「分かる・できる授業」を心がけている。

【全員ができる自主学習】

- ・ 自主学習の方法がわからない児童へは、どのような学習に取り組みればよいかの取り組み例を教師が示し、必ず全員ができるように働きかけを行っている。

3 校長先生から

学習の基盤となる良好な学級集団をつくるためにも、規範意識は大切な視点です。ふくしま学力調査で伸びを引き出した先生や専門性のある先生の取り組みを聞き取って職員会議等で共有することで、若手教員にも視点を与え、学校全体で教員の指導力向上に取り組んでいます。最上級生である6年生の自発的な取り組みが下級生に浸透するよう教員が支援し、好循環を継続させたいと考えます。

いわき市立小名浜第二中学校（大規模校） 規範意識の醸成に向けて、 生徒と教師、生徒間の対話を大切にした授業づくり

1 「規範意識」に目を向けた学校全体の取組

意図的な話し合い活動の設定

規範意識を高めるために、年度当初に、全ての教育活動の基となる「話を聴く」態度の育成を図る機会を設けた。そのうえで、年間を通して、「聴くこと」と「話すこと」を両輪とした指導に取り組んでいる。さらに、どんな場面でも「自分から考えを話す」ことができるようにするために、学習活動の意図や到達イメージを共有し、意図的に対話の場を多く設定している。

2 取組を生かした授業の実例

【授業でも考えを伝え合う活動を大切に】

授業では考えを伝え合う活動を大切にしている。道徳科の授業の話し合い活動では、「自分から考えを話す」こと、他者の「話を聴く」ことを通して、規範意識の醸成につなげている。また、教師も生徒の「話を聴く」ことで、生徒との対話を大切に、生徒との信頼関係の構築に努めている。

互いを認め合うことを基盤に共有して練り上げる活動を設定したことで、個々の生徒が学習に集中する姿が見られる。



<数学科>



<保健体育>



<学級活動>



<道徳科>

「教師のポイント説明～個別に解き方を模索～伝え合う・練り合う～より効果的な解法への深化～問題のドリル」のプロセスを生徒が理解して学習を進めている。

また、毎週1日来校する学力向上支援アドバイザーによる定期的、継続的な支援を、授業改善につなげている。

3 校長先生から

「活気のある学校」「凡事徹底」を合言葉として「発想を生かす」「やるべきことはやる」ことを生活の基本としています。規範意識の醸成に向けた生徒と教師、生徒間の対話を大切にしている意図的な取り組みは、学校を落ち着かせ、学力の伸びにつながっています。

「主体的・対話的で深い学び」 に目を向けた学校全体の取組



福島市立三河台小学校
相馬市立中村第一小学校
伊達市立月舘学園中学校
塙町立塙中学校
喜多方市立塩川中学校

福島市立三河台小学校(中規模校) 「子どもも教師も学びを愉しむ」 子どもが学びを実感できる授業づくり

1 「主体的・対話的で深い学び」に目を向けた学校全体の取組

<p>(1) 主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元や単位時間の学習の見通しをもたせる授業の導入。 ・ 身の回りの事象やできごとを活用した教材との出会い。 ・ 授業の学びを実感する振り返り。 	<p>(2) 対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達とのかかわりを基に、自分なりの考えを創り上げる。 ・ 友達の発表内容を再現したり、共感の理由を聞いたりする。 	<p>(3) 深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付ける学習活動。 ・ 「見方・考え方」を働かせた表現活動。
--	--	--

2 取組を生かした授業の実例

<p style="text-align: center;"><u>国語科</u></p> <p style="text-align: center;">(1) 主体的な学び</p> <p>単元の導入において、見通しをもたせて学習の流れをイメージさせたり、授業の導入で意図的に前時の振り返りを発表させたりすることで、子どもが学習の見通しをもち、迷わずに学習を進められるようにしている。</p> <p style="text-align: center;">(3) 深い学び</p> <p>今日の学びを使ってアウトプットする際に、表現の工夫の効果について子ども自身に確認させるなど、「見方・考え方」を働かせた言語活動を大切にしている。</p>	<p style="text-align: center;"><u>算数科</u></p> <p style="text-align: center;">(1) 主体的な学び</p> <p>修学旅行で浅草を訪問した際におみくじを引いてくる課題を出した。そのおみくじを使って、算数科の授業でヒストグラムを作成したり、確率を求めたりする学びを行った。教師自身が「面白い！」と思ったことを教材にすることで、子どもたちが日常生活と算数とのつながりを感じ、楽しみながら算数を学べるような授業を行っている。</p> 
<p style="text-align: center;"><u>授業全般</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="157 1236 391 1449">  <p><振り返りシート></p> </div> <div data-bbox="466 1246 864 1526"> <p style="text-align: center;">(1) 主体的な学び</p> <p>授業の振り返りでは、「分かった!」「なるほど!」といった未知のものが明らかになった喜びや、「できた!」「もう少しい!」「最後まで頑張った!」などのやり抜いた達成感を感じる場面に授業に位置付け、自己の学びを実感できるようにしている。</p> </div> <div data-bbox="891 1246 1234 1526"> <p style="text-align: center;">(2) 対話的な学び</p> <p>友達の発表を聞いてうなずいている児童に、友達の考えを再現させたり、うなずいた理由を聞いたりすることで、一人一人が自分の考えを創り上げられるようにしている。</p> </div> </div>	

3 校長先生から

本校では学びをたのしむことを「楽しむ」ではなくあえて(能動的な意味の)「愉しむ」という言葉で表現しています。多くの子どもたちが学ぶことを愉しんでいて、教師も授業づくりを愉しんでいます。教師は学級(学年)だけに閉じずに、教師集団としての丁寧な見取りをもとに、「共有・協働・共感し合う研修」を通して、子どもたちに資質・能力を確実に身に付けさせています。子どもたちが主体的に学び、授業後に自分の成長を実感できるような授業づくりを大切にしています。

相馬市立中村第一小学校（中規模校） 同僚性が支える 教科等の本質を意識した授業づくり

1 「主体的・対話的で深い学び」に目を向けた学校全体の取組

（１）同僚性を生かした授業改善

- ・ 国語科及び算数科において、教科担任制や専科教員を活用し、系統性を意識した授業づくりを行う。
- ・ 日常的な互見授業を推進し、子どもの姿を基にした教師の働きかけの在り方について研修を深める。

（２）安定した学年・学級経営

- ・ 学年やブロック間で指導方針の共有や情報交換を行い、安心・安全に学べる学級・学年づくりを行う。

2 取組を生かした授業の実例

（１）同僚性を生かした授業改善

第3学年算数科「あまりのあるわり算」

互見授業

【本時のねらい】 商やあまりの意味に着目して、問題に応じた商やあまりの処理のしかたを考え、説明することができる。

【学 習 問 題】 27個のボールを1箱に6個ずつ入れていくとき、ボールを全部箱に入れるには何箱必要でしょうか。

～あまりの処理についての対話の一場面～



児童A

計算すると4あまり3になるけど、このままだと答えにならないと思うよ。



児童B

Aさんが言いたいのは、（黄色い線で囲みながら）6個のボールが入った箱が「4箱」できるけど、あまった「3個」も1箱としないといけないということだと思うよ。



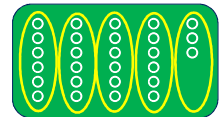
教師

Aさんの言いたいことを詳しく説明できますか？



児童C

つまり、3個のボールが入った1箱も（4箱に）合わせないといけないということだね。



互見授業の後に、同学年の教員や専科教員の間で、上述の場面での子どもの姿を基に、教師の働きかけについて話し合いを行った。児童Aの発言について、具体的に説明するよう全体に促した教師の働きかけにより、一部の児童と教師とが行う一問一答のやりとりではなく、児童が互いに学び合う姿につながったことが共有された。このような話し合いを日常的に行い、授業実践に生かしていくことが、児童の資質・能力を高めることにつながり、学校全体の授業改善へとつながっている。

3 校長先生から

今回の6年生の学力の伸びについては、5年生の時に「一部教科担任制」をとったことの効果が大きいと考えています。国語と算数専科の教員は、毎日しっかりと教材研究に取り組んでいました。その成果が授業に現れ、楽しい授業になったものと思います。今後も「一部教科担任制」を継続していきたいと考えています。

伊達市立月舘学園中学校(小規模校) 小中一貫校の強みを生かし、学びの系統性を意識した 主体的・対話的で深い学びにつなげる授業づくり

1 「主体的・対話的で深い学び」に目を向けた学校全体の取組

(1) 系統性を生かした授業づくり

- ・ 小中一貫校の強みを生かし、小・中学校教員による互見授業
- ・ 小・中学校で子どもがどのような学びをしているかの実態把握
- ・ 教材理解と子ども理解に努め、系統性を意識した授業づくり



(2) 振り返りの充実

- ・ 子どものゴールの姿である振り返りの言葉を具体的に想定した授業づくり
- ・ 子どもの「もっと知りたい!」を大切にしたい授業づくり

2 取組を生かした授業の実例

国 語 科

(1) 系統性を生かした授業づくり

小学校や中学校それぞれに出てくる教材を意図的に登場させて関連をもたせることで、学びが連続し、主体的に学ぶことができるようにしている。

数 学 科

(1) 系統性を生かした授業づくり

学習の理解度に応じて取り組めるよう段階を踏んだワークシート(穴埋め→計算過程を途中まで記入→問題のみ)を作成し使用している。

授 業 全 般

(1) 系統性を生かした授業づくり

小学校の学びを基に個への支援を行った、意図的なペア・グループ活動を行った、学びを深めさせている。

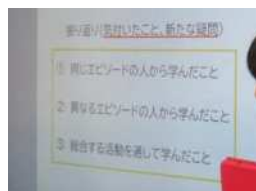


<グループによる活動(社会科・理科)>

(2) 振り返りの充実

分かったことや気付いたこと、もっと知りたいことなど視点を設けて振り返りシートに書かせている。そのシートを回収し、教師がコメントをして価値付けている。

また、教師が振り返りの内容を把握し、次時の学習課題の設定につなげている。



<振り返りの充実(国語科)>

3 校長先生から

小中一貫校として、子どもたちは落ち着いた生活環境の下で、学校生活を送っています。教員も互見授業を積極的に行い、小学校教員は中学校教員から教科専門性を学び、中学校教員は小学校教員のきめ細かな発問や子どもとの関わり方を学んでいます。子どもだけでなく教員も、小学校入学から中学校卒業までの9年間を見通した学びを意識することで、資質・能力を確実に身に付けさせています。

埴町立埴中学校（中規模校）

学ぶことの楽しさを実感し、 確かな学力が身につく授業づくり

1 「主体的・対話的で深い学び」に目を向けた学校全体の取組

(1) リーディングスキルの視点を取り入れた授業づくり

- ・ リーディングスキルの視点から、文章を正しく理解する力や伝える力を身に付けられる工夫をしている。
- ・ 生徒が言葉や表現にこだわって発表したり、教科書や資料を深く読んだりできるように、計画的にグループ学習やペア学習の場面を設定し、友達の考えを理解すること、自分の考えを友達に正確に伝えることの大切さや楽しさを生徒が実感できるようにしている。

(2) 中1ギャップを克服させるための取組

- ・ 学習意欲が低下したり、自信をなくしたりしないように、生徒が自身の成長や学ぶことの楽しさを実感できるような手立てを講じている。

※リーディングスキル

- ・ 「一般社団法人 教育のための科学研究所」が提唱しているもの。
- ・ 事実や根拠に基づいて書かれた文章（教科書や新聞、説明書など）の意味や内容を正確に理解する力のこと。
- ・ リーディングスキルテストにより測定・診断することができる。

2 取組を生かした授業の実例

国 語 科

(1) リーディングスキルの視点を取り入れた授業づくり

生徒が主体的に表現や考えを練り上げ、友達の考えを理解し、自分の考えを友達に正確に伝えることができるよう、計画的にグループ学習やペア学習の場面を設定している。

- ・ 自分の好きな短歌を一首選び、同じ短歌を選んだグループで意見交換する。
- ・ 新たに得た視点をもとに、選んだ短歌の魅力レーダーチャートに表し、鑑賞文を書く。



授 業 全 般

(1) リーディングスキルの視点を取り入れた授業づくり

リーディングスキルテストの結果を踏まえた教科の視点を明らかにし、言葉を正しく理解する力や正しく読む力を身に付けられるように学習過程を工夫している。具体的には、リーディングスキルの視点を生かす場面をどこに設定するか、本時の目標達成のためにおさえたい「言葉」や、生徒にとって親密度の低い「言葉」を明らかにして手立てを講じている。

(2) 中1ギャップを克服させるための取組

全学年実施のスペリングコンテストの他に、より簡単な内容での漢字、計算コンテストを実施した。「ライバルは過去の自分」のローガンの下、生徒は他者との比較をすることなく、自分自身の成長と努力することのすばらしさを実感している。また、様々な学習面で生徒それぞれの考えや取組を称賛し、自信をもたせるようにしている。

3 校長先生から

本校では、教師の組織力を生かした学校運営を行っています。学習支援や生徒指導に学校・学年単位で協力して取り組んでおり、その姿勢は研修面にも表れています。また、埴町全体でリーディングスキルの研究に取り組んでおり、校種・教科の枠を超えて研修していることが強みです。

喜多方市立塩川中学校（中規模校）

生徒が学び合う授業づくり

1 「主体的・対話的で深い学び」に目を向けた学校全体の取組

（1）話し合い活動の充実

- ・ 教師が一方的に話すのではなく、生徒同士の話し合い活動を通して、生徒自身が学びを深めていく授業づくり

（2）親和的な雰囲気学の学級づくり

- ・ 学級担任だけでなく、学年の教師全体での生徒の見守り
- ・ 生徒が安心して教師に相談したり、間違いを恐れずに発言したりと、のびのびと活動できる雰囲気の醸成

2 取組を生かした授業の実際

国語科

（1）話し合い活動の充実

単元によって指導方法を変えているが、主に説明的文章の単元においてはグループ学習に取り組んでいる。話し合い活動では、キーワードを提示し、何を話し合うのか明確にしている。

板書では、カードを提示して見やすくし、指示や発問の意図が確実に伝わるように工夫している。特に生徒は分からなくなったらノートを見て前時までの学びを振り返る習慣が身に付いている。



<第2学年 数学科>

数学科

（1）話し合い活動の充実

授業の開始時から4人グループになり、いつでも聞き合える学習環境を整えている。グループ学習においては、個別解決とグループ解決の両方を行うことができ、全体活動では出てこない“つぶやき”が出てくるようになった。教師がそのつぶやきを拾って個別に対応することができ、教師の説明が大幅に減った。教師が単元のつながりを意識した指導を行うことで、生徒も見通しをもって取り組むことができるようになり、生徒の実態に合わせた適切な課題設定にもつながっている。

（2）親和的な雰囲気学の学級づくり

習熟度別など、グループ編成を工夫することで、教師が生徒のつまづきを把握しやすくなった。つまづきに応じた声掛けなどがあることで、生徒たちは安心して授業に臨むことができ、間違いを恐れずにのびのびと活動できる親和的な雰囲気がつくられている。

3 校長先生から

学校全体で、基本的な学習規律を身に付けさせることに力を入れており、特に2学期は親和的な学びの集団が形成されています。生徒を伸ばすという視点を大切にし、教師が一方的に教える授業から、生徒同士の話し合いを通して生徒自身が学んでいく授業への転換を意識した授業改善を行うように呼びかけてきました。今後も授業改善グランドデザインと生徒自身が学んでいく授業づくりを意識して全職員で取り組んでいきたいです。

「ふくしま教育創造
コンソーシアム」
実践発表校

郡山市立芳山小学校
白河市立関辺小学校
二本松市立岩代中学校

郡山市立芳山小学校(中規模校) 子どもを「みる」子どもの声を「聴く」 誰一人取り残さない学校づくり

1 「学級風土」に目を向けた学校全体の取組

～全教職員で全校生を見守る～

(1) 子どもの可能性を信じる

子ども一人一人のよさや可能性を見つけ、学校全体で共有する。

(2) 子どもの思いに寄り添う

楽しさ、嬉しさ、困り感、不安…子ども一人一人の姿から思いを感じ、寄り添う。

(3) すべての子どもを大切に

一人一人のよさを生かし、どの子どもにも活躍の場をつくる。

2 取組を生かした授業の実際

第2学年 算数科

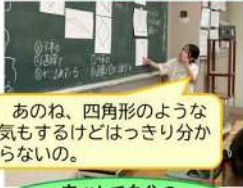
(2) 子どもの思いに寄り添う

子どもの表情やしぐさを丁寧にみることで、一人一人の思いを感じ取り、全体で共有する。

「さんかくやしかくの形をしらべよう」



Sさん、何か困っていることがありそうですね。お話ししてください。



あのね、四角形のような気もするけどはっきり分らないの。

安心して自分の思いを伝える

友だちの思いに寄り添う



Sさんが困っているのは、きつとね…

困り感の共有

「できた!」「分かった!」「どうして?」「よく分からない…」など、どの子どもも安心して自分の思いを話すことができる学級づくりをしている。先生が、どの子どもの思いも同じように大切に受け止めることで、子どもたちもお互いの思いを大切にする。授業では、特に「困っていること」や「分からないこと」を大切にしている。

第6学年 算数科

(3) すべての子どもを大切に

子ども一人一人のよさや得意なことを生かし、どの子どもにも、授業の中で活躍できる場面をつくる。

「円の面積の求め方を考えよう」



Kさん、実際に確かめてみて。そうすると、みんなの大きさの感覚がはっきりするよ。



えーっ、そんなに入るんだあ! 意外だったよ。すごいね。

友だちの言葉を丁寧に受け止める

7個は余裕で入るね!

自分の役割を楽しむ

個に応じた活躍の場

「この場面では、必ずKさんを活躍させる!」先生は、子ども一人一人の顔を思い浮かべながら授業を構想している。一人の子どもを大切に先生が、子ども一人一人の自信や「私も同じように大切にされている」という学級全体の安心感につながっていく。どの子どもも、授業をとっても楽しんでいる。

教師の姿こそが子どもの姿である

3 校長先生から

先日、学習発表会をご覧になった支援学級の児童の保護者からお手紙をいただきました。「自分の子どもが、あんなにたくさんの先生方に声をかけていただいて、周りの友だちが当たり前のように一緒に活動してくれて、本当に嬉しかったです。」
すべての子どもを同じように大切に、誰一人取り残さない、この子どもたちや先生方の姿こそが芳山小学校です。

白河市立関辺小学校(小規模校) 「分かる・できる・やりたい」のある授業づくり ～よりよい学級集団づくりを基盤として～

1 「学級風土」に目を向けた学校全体の取組

(1) Q-Uテストの分析と学級集団づくり

- ・ 子ども一人一人が、自分の目標を決め、チャレンジできる場の設定
- ・ 親和的でやる気に満ちた、居心地のよい学級づくり

(2) 授業におけるQ-Uテストの活用

- ・ 学級タイプに合わせた授業の計画
- ・ 不満足群、非承認群、侵害行為認知群の児童への具体的な手立て

(3) 関辺版授業スタンダードの活用

- ・ どの子どもも、学び方が分かる具体的な手立て
- ・ 教師が、子どもの姿から学級づくりを振り返るためのチェックシート

2 取組を生かした授業の実例

第3学年 算数科

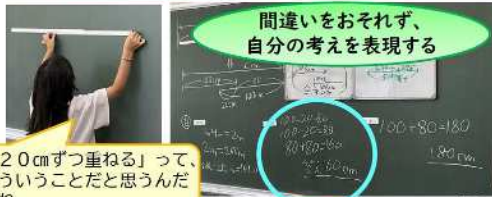
(1) Q-Uテストの分析と学級集団づくり

自ら動き出す姿を称賛することで、間違えてもいいから、まずは自分で考えてチャレンジできる子どもを育成する。

「重なりに注目して」



Aさん、考えたことをどんどん表現できて、すばらしいね!



「20cmずつ重ねる」って、こういうことだと思うんだよね。

自ら動き出すことへの称賛と場の確保

「20cmずつ」だから、20cmを2回引かないとだめなんだよ。



この学級は、ほとんどの子どもが学級生活満足群に属している。先生は、どの子どもも安心して自分の思いを表現することができるよう、互いの考えの違いを大切にしている。そのため授業では、間違えることをおそれず、みんなで考えを出し合い、課題解決に向かう姿が見られている。

第6学年 算数科

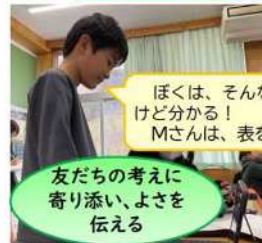
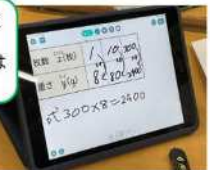
(2) 授業におけるQ-Uテストの活用

子ども一人一人のよさや特性を生かし、どの子どもも授業に対して満足感や達成感を得られるようにする。

「比例の関係を詳しく調べよう」



Mさんの表の見方、すごくいいと思うんだよね。Mさんの考えを話せる人はいるかな?



友だちの考えに寄り添い、よさを伝える

どの子どもも満足感を感じる働きかけ

この学級は、ほとんどの子どもが学級生活満足群に属している。授業において、Mさんは普段からとてもよい気付きをすることができる。先生は、Mさんのよさをさらに生かしたいと考えている。そこで、Mさんが自分の考えを認められる喜びを感じられるよう、周りの子どもたちに働きかけていた。

3 校長先生から

本校では、授業を学級づくりの中心に据えています。先生方は、授業をしながら学級づくりをしています。その際の具体的な手立ては、Q-Uテストの分析から作成した個別の指導計画によるものです。各学年とも、ほとんどの子どもたちが学級生活満足群に属しています。しかし、極少数ですが、不満足群や非承認群の子どもも見られます。その子どもたちとの関わり方について、校内で互いに情報を共有し、すべての子どもにとって、よりよい学級づくりや学校づくりに組織的に取り組んでいます。また、月案を利用し、先生方が日頃から自分の学級の様子を振り返っていることも、よりよい学級集団づくりにつながっていると感じています。

二本松市立岩代中学校(小規模校) 小規模校の特徴を生かし、 自己効力感の向上を目指した授業づくり

1 「自己効力感」に目を向けた学校全体の取組

(1) 少人数による学び合い

- 理解や習熟の程度に応じた編成や、興味・関心に応じた編成など、様々な学習形態の編成

(2) 個に応じたきめ細かな指導

- 支援が必要な生徒への個別指導や、上位生徒への新たな問題の提示など、個別最適な学びの手立てを講じる

2 取組を生かした授業の実例

数 学 科

(1) 少人数による学び合い

「理解や習熟の程度に応じた学習」を通して、協働的な学びにつなげる編成を単元末の問題練習などで取り入れている。



<個別の学び>



<習熟度別によるグループ学習>



<全体での説明>

一人一人の学習状況や学習内容の定着を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っている。

国 語 科

(2) 個に応じたきめ細かな指導

情報の収集、整理、分析の過程において、ICT機器を使用させ、教師がその過程を確認しながら個別に支援を行っている。個別活動で教師の支援が行き届き、全体発表でも多くの生徒が自信をもって意見を発表できている。



授 業 全 般

(2) 個に応じたきめ細かな指導

一人一人に対して関わる(見取る)時間を多く設定し、生徒の学びの姿への気付きにつなげている。また、少人数の特徴を生かし、生徒自身がアウトプットする機会を多く設定することで、生徒自身が自分で学んでいるという意識をもてるようにしている。



3 校長先生から

授業においてだけでなく、学校行事等においても一人一人に役割を与えて、それぞれが活躍する場面をつくるようにしています。先生方もみんなでその様子を見取り、生徒の活躍を認め、称賛する機会をたくさんつくっています。授業においては、数学だけではなく他教科の授業においてもペア学習やグループ学習、全体での共有の場面など、生徒がアウトプットする機会を設定することで、生徒自身が「自分たちで学んでいる」意識をもてるようにしています。生徒質問紙の結果からも、自己効力感の向上が見られ、意欲的な学びにつながっています。